

富山大学教職大学院

教師の「子どもの見方」を豊かにする研修プログラムの共同開発

子どもの主体的・対話的で深い学びを促す教師であるためには、まず教師自身がこの新しい学習観を経験し、その力を養っていくことが求められるという認識のもと、平成28年度から理論と実践の往還を図る形で富山大学教職大学院と同学人間発達科学部附属特別支援学校が連携して「学びあいの場」と称する教員研修プログラムを開発しています。

「学びあいの場」の特徴は、子どもの内的経験に注目して、ひたすら子どもの視点に立ち子どもの学びの過程を観ようとすることにあります。これには正解はありませんが、教師が授業において違和感を覚える場面について、その事実をもとに原因の推察を聞き合うことで真実に近づこうとすることを研修の目的としています。そしてこの取組によって主体的に学ぶという学習観を教師に培うことができると考えています。

「学びあいの場」はこれまで延べ35回の研修（公開授業数87）を開催し、全国から1619人の参加を得るにいたっています。〔令和2年7月1日現在〕

この期間、研修における様々な独自の技法（ラベルコミュニケーションやアクティブリスニング、協同学習リフレクション等）の開発と改善を図ってきています。そして平成31年度教職員支援機構の「教員の資質向上のための研修プログラム開発・実践支援事業」に採択されたことを契機に、当研修を校種に関係なく広く役立ててもらうためにDVD教材を制作して啓発活動を図っているところです。

